<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：井田保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：長瀬 学	定員（利用人数）：110（96）名	
所在地：〒211-0035 川崎市中原区井田1-26-33		
TEL：044-751-1637	ホームページ： https://www.choujyu-f.jp	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：1979年04月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 長寿福祉会		
職員数	常勤職員：25名	非常勤職員：7名
専門職員	（専門職の名称）：名	
	保育士：22名	栄養士：5名
施設・設備 の概要	（居室数）	
	居室：0歳児室	設備：調理室
	居室：1歳児室	設備：沐浴室兼乳児便所
	居室：2歳児室	設備：事務室兼医務室
	居室：3歳児室	設備：相談室
	居室：4歳児室	設備：ホール
	居室：5歳児室	設備：幼児便所
	居室：	設備：ソーラーパネル
	居室：	設備：ユニットプール
居室：	設備：園庭	

③理念・基本方針

<理念>

「縁」（えにし）… 子ども・地域・未来・であい

～保育に関わりであった、子ども、地域、未来を回りから見守り、支えていくことを大切にしていきます

<基本方針>

- 子どもたちの今と未来を守る保育
- 自然を愛し五感を育む保育
- 地域とつながり育ちあう保育

<保育目標>

1. 体力のある元気な子ども
2. 友達と仲良く遊べる子ども
3. 豊かな感性をもった子ども

④施設・事業所の特徴的な取組

＜井田保育園の特徴的な取組＞

1. 薄着保育
2. 戸外遊び
3. 食育活動
4. 布おもちゃ

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2024年06月12日（契約日） ～ 2025年02月26日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2019年度）

⑥総評

【井田保育園の概要】

●井田保育園（以下、当園という。）は、社会福祉法人長寿福祉会（以下、法人という。）の運営です。昭和54年4月1日に系列園の2園目に0歳児から2歳児60名定員で開設され45年目を迎えています。園長は、法人理事長を兼務されており、当園のみならず法人系列全園の管理・運営を行い、長年の経験・知見を生かし、的確な運営により地域に根付いた保育園を創造しています。園長の保育観と雰囲気作りにより、職員は高い結束力、柔軟性により「やってみよう」の精神を持ち、「やりながら」修正・調整を図り、目的及び目標に向かう姿勢を大切にしています。

●当園は、東急東横線「元住吉駅」よりブレーメン商店街を抜け、徒歩20分程度の閑静な住宅街に位置しています。当園が所在する中原区は、川崎市全区で人口・世帯数が最も多く、人口構成も20代から30代の若い世代が多く占めています。子育て環境として非常に人気が高く、子育てリテラシーも高い新興住宅街地域です。園舎は2階建てとなっており1階は0歳、1歳児及び給食室、事務室があり、2階には2歳児から5歳児の保育室、広いホールが設けられています。そして、L字型の広い園庭を有し、植樹の植栽も多く、門扉入口近くのツリーハウスでは幼児が登って遊ぶ等、楽しみの多い保育園です。

●保育理念である「縁（えにし）」は、創始者の思いが凝縮してまとめられおり、さまざまな「縁」を大事にすることを提唱しています。この保育理念は法人系列全園で継承され、当園の職員も一丸となり保育理念を根幹に「子どものために」の思いで保育の充実を支えています。

◇特長や今後期待される点

1. 【E保育プロジェクトの取組】

当園では、5年前から取組のあるスローガンとして、「笑顔」(Egao)で「楽しい」(Enjoy)保育を基本に、「絵本」(Ehonn)を良く読む、「園芸」(Engei)で土いじりから収穫の実践等を、スローガンの頭文字「E」を取って「E保育プロジェクト」として保育の取組として表現し保育を展開しています。

2. 【健康的な体作り・五感の育み】

当園では、裸足保育を実践しています。裸足保育により土踏まずの形状が良くなり、足裏の感覚、動きも柔軟になり体幹が育まれています。乳児についてはハイハイ遊びの大切さ、四つん這いによる踏ん張りにより下半身の育みを促進しています。これらを「足育」として全年齢で取組んでいます。また、基本は半袖半ズボンの薄着で過ごすことで、

動きやすさ・着替えやすさを大切に、暑さ寒さを肌で感じることの大事さを学習しています。また、園庭では土遊び、水遊び、枯葉いじり、粘土遊び等、触れて匂い、冷たい温かい感覚を覚え、季節の鳥や動物の鳴き声、リトミックによるリズム感等を遊び・自然の中で体験する機会を豊富に取り入れています。当園の裸足保育、薄着保育、自然との関わりは五感を養い育む良い取組になっています。

3. 【アナログ文化とデジタル文化の融合】

IT化の促進が提唱されている時代に、アナログ文化の良いところ・自然に優しいデジタル文化の活用を推奨しています。オールパッケージのシステムソフトにせず、子ども・保護者の記念になる温かみのある連絡帳、登降園時刻管理を記入形式にして一目で分かるよう効率化にも配慮しています。また、園だより、ドキュメンテーション等の配付物はデジタル配信にしてペーパーレス化に取組み、環境への配慮に努めています。

4. 【自然に優しい取組】

使い捨ての昨今の時代にリユースできることは自然に優しい姿勢である、という思想を実践しています。その一つに、布おむつの利用があります。紙オムツは使い捨てですが、布オムツは洗うことで何度も使うことができます。また、廃棄を考える際、紙オムツは燃え難いですが、布オムツは乾かせば燃え易い性質がある等、環境に優しいSDGsの取組にもなっています。また、子どもにおいて排泄時の感触を実感することで排泄の際、「出た」ことから「出そう」の感覚を覚え、トイレトレーニングの促進につながっています。

5. 【設備について】

国及び県をはじめ、保育の質の向上に向けた取組として保育者の業務環境の改善の必要性からICTの活用を推進しています。現世代の保護者のITリテラシーも高いことから、可能な範囲で導入検討の必要を感じ取っています。さらなるアナログシステムとデジタルシステムを融合した利便性の向上につながる取組を期待しています。また、利用者（保護者）アンケートの意見からも、セキュリティ課題が挙げられ、入口の施錠については不審者対応の対策が必要かと思われますので、改善に期待しております。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名 井田保育園

《第三者評価を受審した感想・自己評価での取組の感想》

前は個人から職員全体の評価を行ったが、今回は、個人の自己評価後、様々な業種や経験年数の少人数グループでの評価を行い、代表者につなげていく流れで進めたことで、質問や意見が出しやすく分からなかったことが明確になり、様々なことを理解することができた。

職員間で意見交換をすることで、改めて園の良さや自信を持つことや改善点に気づき、振り返りや見直しを行い、職員全体で共通認識へとつながった。

保護者からの目線は感じていることを知ることができ、保育の励みになったことや、改善できる部分については取組んでいきたい。

全体的に改善することが明確になり、すぐに取組んでいったが、今後も評価結果をもとに今後活かし、意識の統一を図り、具体的な取組を進めていきたい。

事前資料に集計付き「自己評価集計表」や評価結果報告についての確認書等、データでいただけると作業がスムーズに行えたと思う。郵送だと交通事情等で時間がかかるのでメールのやり取りが良いかと思った。

《評価後取組んだこととして》

1. 実習生受入れのマニュアル見直し
2. 火災、不審者についての見直し

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり